

九州産業大学大学院

KYUSHU SANGYO UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL



令和2年度 研究成果発表会

大学生を対象としたアレキシサイミア傾向者への 効果的な支援の検討

博士前期課程

国際文化研究科 国際文化専攻 臨床心理学研究分野

江越康太

主査 久保田進也
副査 小林純子
杉万俊夫

研究背景

アレキシサイミアとは...

- ・感情を識別することが困難
- ・感情を認識し表現することが困難
- ・空想・想像することが困難
- ・自身の感情より出来事への対処を優先する傾向

→アレキシサイミア傾向の人は、心身の健康を害しやすく、
また問題行動を起こしやすい

研究目的

アレキシサイミア傾向者について、以下の要素がいまだ明らかにされていない。

- どの程度援助を求めているのか
- どのような援助（ソーシャルサポート）を望んでいるのか

→アレキシサイミア傾向者へのより良い支援を模索する

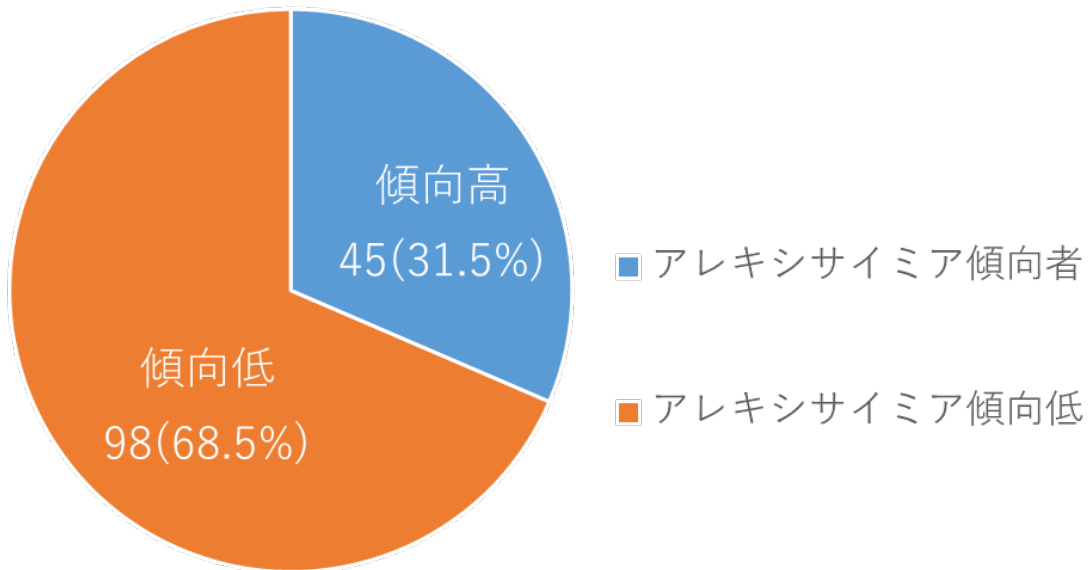
研究概要

大学生の男女143名（男性：71名，女性：72名）を対象に、以下の尺度を用いた質問紙調査を行った。

- 日本語版The twenty-item Toronto Alexithymia Scale (TAS-20)
- 援助要請スタイル尺度
- 大学生版ソーシャルサポート尺度

研究概要

- アレキシサイミア傾向者
(TAS-20得点>60)



アレキシサイミア傾向者人数比

- t検定
独立変数：TAS-20の高・低群
従属変数：各援助要請スタイル
群の平均得点



アレキシサイミア傾向高群と援助要
請回避型の間には有意差がみられた
($F=.00$, $t=1.99$, $p<.05$)

研究概要

- ・分散分析

独立変数：TAS-20高・低と各援助要請スタイルで群分けした6群

従属変数：ソーシャルサポート



ソーシャルサポートの①情報・道具的サポート②情緒・所属的サポートにおいて有意な群間差が見られた

〔① (F(5, 118)=2.558, p<.05) ② (F(5, 118)=5.611, p<.005) 〕

成果・まとめ

明らかになったこと

- ・アレキシサイミア傾向のある者ほど援助を求めることができない
- ・アレキシサイミア傾向のある者ほどソーシャルサポートを求めている

指導教員コメント

本研究は、アレキシサイミア傾向のある者の援助要請スタイルと求めるサポートについて分析しており、臨床面からみて興味深いテーマの研究であった。

インタビュー調査を行えば、より当事者のニーズに即した知見が得られると思われる。

久保田進也